

小兒の百日咳に就いて

醫學博士 豊 福 環

今年は大層百日咳が小兒に流行いたしました、眞夏頃でさへ、私の方に見える患者の子供の中に澤山ありましたから、秋風立ちそめて、空氣が乾燥し始めますと、尙更流行すること、思ひます。然し、幸にも、今年の百日咳は餘り悪性でないのでありますから、手當さへよろしければ、別に心配するには及ばないのでございます。

百日咳はどうして起るのかと申しますと、ブルデ及びジャングの兩氏に依つて發見された菌の作用であります。インフルエンザ等と同じやうなわけなのであります。今日でも、昔の通りに、菌説をこらぬ人もあつて、神經性のものであるといふ事を唱へる人もありますが、大體は微菌の作用に基くものであります。人から人へ傳染してゆくのも、微菌の作用である事は間違のないものであります。

百日咳は、どうして傳染してゆくか、といひますと、咳さへふつかけられなければ、側に居りまして

も、決して傳染するものではありません。麻疹ハシカなら、同室に居りましただけで傳染してしまふのであります。百日咳は二メートルさへ離れてゐましたら、傳染することはありません。

百日咳に罹る年齢は小兒期が一番多いので、小兒の年齢が小さければ小さいほどかゝり易いのであります。これは子供が百日咳になりましたのを看護してゐる母親や乳母が傳染するからです。

こんな例がありました。母親が妊娠して臨月に近くなつて居ります時に、子供が百日咳にかゝつて、母親が子供から傳染して、百日咳のために遂に母親が早産してしまつたといふのがあります。又これも産婦の例でございますが、この方は病院でお産してゐる中に、家に残して來た子供が百日咳になつたので、新しく生れた赤さんに豫防注射をして少し退院の日をのばしてから、歸宅しましたので、幸にも赤

さんが百日咳になることを免れたといふのであります。

小兒が百日咳に罹りますと、豫後がどうもはかばかしくゆきません。小兒は出来るだけ豫防して、この可愛いさうな病氣にかゝらせないやうにするのが一番よろしいのでござります。百日咳はどんな風にして起つて来るかと云ひますと、初めは普通の風邪と同じやうで、咽喉がはれたり、鼻が出たり、咳も少しは出て、熱はないのであります。かうしてゐる中に、毎日に咳が強くなつて行きます。

百日咳は大體三期に分つことが出来ます。第一期は加答兒期、第二期は痙攣期、第三期は恢復期であります。

加答兒期は、鼻が出たり、咽喉、氣管支、肺等を侵される時でありまして、風邪と少しも違ひないのであります。咳が強く屢々出て來ます。

痙攣期といふのが一番苦痛な時で、咳が續いて、濃厚な唾液をはき、一時咳がやむと息をしますが、その折に吸氣性笛聲といつて、笛のやうに咽喉がなります。顔面が充血して赤くなり、呼吸が一時停止したりします。赤んぼ等がこんな状態にある時は、見る

に忍びないのであります。

恢復期に向へば、咳は段々と少くなり、笛聲や呼吸停止も少くなつて、一週間乃至十日間位で全快します。

百日咳は冬にかゝりますと空氣が乾燥してゐますから重くなりますが、夏時分の方は傳染力が多いのであります。之は夏は子供が外に出て遊びますから、子供同志が接觸する機會が多いからであります。

子供の體質によつて、軽いものと重いものとありまして、どんな傳染病でも難病でも、軽く通り過してしまふ質の子供がありますが、かう云ふお子様を持たれ、ばお母さんは、ほんとうに幸福です。

百日咳で恐ろしいのは、合併性の病氣が起るからであります。食欲がすっかりなくなつて、衰弱してゐるところに、餘病が發したならば、迎も助かりつこはないのであります。氣管支炎にでもなりましたら氣の毒なほど療りにくうござります。百日咳も強くなる時、出血して來ます。例へば、鼻血、眼の中へ出血したり、腦に充血して、腦膜炎となつたりします。肺ばかりでなく、結核になる小兒も多くあります。

小學校で卒業年齢の兒童を調査して見ましたとこ

ろ、六〇%から七〇%は結核性の児童でありまして、その結核も主に肺の入口、即ち氣管支が二つに分れてゐるところに、淋巴腺の結核になつてゐるのであります。が、身體が強いので、びん／＼してゐるのであります。又粟粒結核といふのがありまして、血液の中に粟粒のやうに結核菌がまかれてしまつて、肺結核となり、腦膜炎となるのであります。

このやうに恐ろしい百日咳はどうして豫防してよいかと云ますと、先づ子供が一人百日咳になりましたら、家族から分離してしまふのであります。入院をさせるとか、冬ならば暖い地方へ轉地させるとか空氣のよいところへ移すのが一番よろしいのであります。もし、分離が出来なかつたら、家族の者には豫防注射をさせるのが一番よろしくあります。食慾は衰へるし、咳するため嘔吐することが多いのであります。それから、消化し易くて、早く腸へ行くやうなもの、即ち流動物がよろしいのであります。吸入をすることも大事であります。又ブルデ、ジャングル菌から製造したワクチン注射を規則正しく行つてゆけば全快に向ひます。ワクチン注射は、初めての時は熱が出ますが、其後になると熱が出なくなり、段々

量をましてゆくことが出来ます。ワクチン注射をしても、中々効能が表れないと云ふ人がありますが、同じ百日咳の菌でも非常に種類が多く、甲の子供の百日咳と乙の子供の百日咳とは違ひ、東京と九州とは流行の百日咳が違ふといふ風ですから、ちやうど同じにワクチン注射の中の菌の百日咳だよろしいのであります。が、違ふと、きつめがないやうに思はれます。然し長くたつ中には、効能があるのでありますから、心配せずに注射を受けた方がよろしくあります。(文責在記者)